



家庭での火災を防ごう

季節は秋です。これからの時期、空気が乾燥し、火災の発生しやすい気象状況が続きます。家庭から火災を起さないよう、皆さんで注意しましょう。



火の用心の7つのポイント



- ・家の周りに燃えやすいものを置かない
- ・子どもにはマッチ・ライターで遊ばせない
- ・寝タバコやタバコの投げ捨てをしない
- ・電気器具は正しく使い、たこ足配線しない
- ・揚げ物をする時はその場を離れない
- ・ストーブの周りに燃えやすいものを置かない
- ・風の強い時はたき火をしない



○電気の取り扱い

- ・電気コードは電気容量に限界があるので、たこ足配線などによる容量を超えた使用はやめる。
- ・電気コードの上に重い物を置いたり、無理に曲げたりしないようにする。
- ・使用しない電気器具の差込みプラグは、コンセントから抜いておく。
- ・コンセントや差込みプラグは、いつもきれいにしておく。

○暖房器具

- ・カーテンなど、燃えやすいものの近くで使用しない。周囲に洗濯物を干さない。
- ・暖房器具を使用している部屋で、可燃性のガスを含んだスプレー缶は使用しない。
- ・火をつけたまま、または電源スイッチを入れたまま移動しない。
- ・石油ストーブに給油する時は、必ず火を消してから行う。

○放火を防ぐ

- ・不要なものは処分し、家の周りに燃えやすいものを置かない。
- ・ゴミは指定日に収集場所に出し、不法投棄はしない。
- ・外出や就寝する時は鍵をかける。
- ・他人が自由に入出入りできる駐車場では、燃えやすいボディーカバーは使用しない。
- ・外灯を設置するなど、夜間も家の周りを明るくする。



《タバコ》

何気なく吸っているタバコの温度は約800℃です。家の中で毎日火をつけているタバコは、ついその危険性を忘れがちです。塗料や接着剤には可燃性の溶剤が含まれているので、タバコを吸いながら子どものプラモデル作りを手伝ったり、ヘアスプレーを使ったりするのは危険ですのでやめましょう。

《着衣着火》

一般的な衣類等の繊維製品は燃えやすく、一旦火がつくとどんどん燃え広がってしまいますが、小さな火源に接しても燃え広がりにくく加工した「防災製品」が市販されています。防災製品には、パジャマ、エプロン、シーツ、布団カバー、車のボディーカバーなどがあります。